

**中央教育審議会初等中等教育分科会**  
**個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に向けた**  
**学校教育の在り方に関する特別部会（第1回（令和3年2月7日））**  
**における主な意見（教科書等WG関係）**

**1. 個別最適な学びと協働的な学びの充実に向けた学校の在り方について**

- 個別最適と協働的な学びがどのような目的・目標に向かっているのか、ウェルビーイングとは何なのか、そしてそれをどのように評価するのかを検討していくことが大事ではないか。
- 学校間連携等、学校を超えた協働的な学びの機会を深掘りしていくことで、今後より新しい展開が見えてくるのではないか。
- 時間というリソースを子供たちから預かっているという観点からみれば、ICTの活用によって学習の効率（実学習時間（実際に授業時間内に子供たちが頭や手を働かせて学ぶタイムオンタスク））が圧倒的に上がる点を再認識すべきではないか。時間を子供たちにとって一番良い形で使えるように最適化するという事は、子供の側からすればとても望ましいことであり、我々のミッションではないか。

**2. 高等学校における1人1台端末の環境整備について**

- 高校への1人1台端末の整備は、教師が授業で一方向的に教えるというスタイルから、生徒が主体的・対話的に学び取るスタイルに変わっていく絶好の機会であり、情報教育の推進が重要。その過程で生徒が主体的に試行錯誤して協働的に解決していく力をつけていくため、情報科の担当教員のさらなる指導力向上に期待したい。
- 全日制の高校の中でデジタル技術を導入し遠隔教育を組み合わせることによって、不登校などの子供たちを全日制の高校から離してしまうことなく、学びを保障できるのではないか。
- 大学入学共通テストに教科「情報」が入ることとなったが、都道府県によって教科「情報」に関する指導や高校の1人1台端末の整備に温度差が生じないように、しっかりと進めていく必要がある。

### 3. デジタル教科書の活用について

- 学びの楽しさを届け、学ぶ意欲を高めるという視点から、デジタル教科書がどのように子供たちの手に渡るか、授業で取り扱われるか、また探究的な学習の仕方も含めて、考えていく必要があるのではないか。
- 教科書・教材については、教科書の無償措置や教科書検定の在り方も含めて検討していく必要があるのではないか。紙かデジタルかという問題ではなく、選べるというところが大事ではないか。
- デジタル教材についてはクラウドツールの利用によって個別最適な学びや学校と家庭を繋いだ在宅学習の充実等の成果が出ているが、デジタル教科書とデジタル教材の関係やデジタル教科書とクラウドツールの関係については整理が必要ではないか。それらの連携の在り方や、教育データの利活用によるデジタル教材の活用方法等、実践を進めていくべきではないか。
- データ利活用においては、個人情報取り扱いや情報の公開・非公開の在り方について議論を進めるべきではないか。